

【熊楠をもっと知ろう！シリーズ第58回 シンポジウム】

# 犬からみた人類史・紀州編

——猟犬からペットへ

日時：2023年9月9日（土）14：00～16：00

場所：南方熊楠顕彰館1階学習室（和歌山県田辺市中屋敷町36番地）

人間にとって最も身近な動物である犬。その犬との関わりから人間社会のあり方を探るのが「犬からみた人類史」の試みです。犬は人間社会に入り込みながら進化してきましたが、近代以降、世界中で人と犬の関係は生業から愛玩へと変化してきました。今回は、文化人類学、比較文化研究、動物行動学、狩猟実践の視点から、現在も進行する犬のペット化について考えます。

○講演

大石高典（東京外国語大学准教授）

「犬から人類社会をみる」

大道良太（狩猟指導員、京都府狩猟講師・試験委員）

「猟師はイヌの何処をみるか」

志村真幸（慶応義塾大学非常勤講師）

「仔犬たちを観察する熊楠」

藪田慎司（帝京科学大学 OPEN AIR LAB 館長）

「イヌとの遊び・

イヌのトレーニング」



猟犬の仔犬（©大道良太）



仔犬（熊楠筆）

【自筆147】雑記帳（2）（南方熊楠顕彰館蔵）

主催：南方熊楠顕彰館 電話 0739-26-9909

※ 入場無料・事前申し込み不要

※ 「クマグスさんと不思議などうぶつたち」展と犬の写真展を同時開催

【展示期間：2023年7月15日（土）～9月18日（月）】

